

みややまなかざといせき

宮山中里遺跡

(寒川町 No.27遺跡)

調査期間 20040401～20070531

所在地 高座郡寒川町宮山
3,370 他

時代 弥生、古墳、奈良・平
安
中・近世



作成日:20090619

概要

宮山中里遺跡の発掘調査は、さがみ縦貫道路建設事業に先立つ調査として行われました。発掘調査・出土品等整理作業は2004年度から継続して行われ、北側にある倉見川端遺跡と倉見川登遺跡とともに事業を進めています。2008年度はこれまでに発掘調査を進めてきた地区の資料の一部について、出土品等の整理作業を行いました。

遺跡は相模川の左岸の微高地(自然堤防)に立地していて、南北に細長く広がっています。おおむね宮山駅の北方から倉見駅の周辺まで、弥生時代から近世の遺跡が広がっていることが確認されています。このうち宮山地区に分布する範囲を、地名を基にして宮山中里遺跡と呼んでいます。

宮山中里遺跡は、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世に亘る複合遺跡ですが、時代ごとに分布の中心は異なっていることが分かってきました。相模川寄りの地区では、古墳時代後期の古墳群がJR相模線に沿うようにして、南北に連なって造られていたことが明らかとなっています。平成14年までに調査を行った第1次調査では、前方後円墳の跡も発見されました。これらの古墳群は、平安時代以降現在までの間に墳丘(ふんきゅう)が削平されてしまって、地表面では古墳の痕跡は全く残ってなくて、古墳があったことは知られていませんでした。古墳の跡は、宮山中里遺跡の北隣



▲Ⅱ区 5号住居跡(平安時代)



▲Ⅶ区 弥生土器出土状況

の倉見川端遺跡で発見されている古墳跡と合わせて、これまでに 28 基が発見されています。相模川寄りの地区では古墳群のほかに、近世の溝や堤防関連遺構などと、弥生時代の集落跡が発見されています。弥生時代の集落跡は宮山中里遺跡の範囲の南西端辺りに1箇所、宮山中里遺跡の北西端辺りに1箇所見つかっています。北西端の集落は、倉見川端遺跡に分布の中心があるものと思われます。

奈良・平安時代から中世にかけての遺構は、相模川から比較的離れた内陸側の地点で多く見つかっています。Ⅱ区と呼んでいる相模川から 250mほど離れた県道寄りの地点では、古墳時代終わり頃から平安時代の溝状遺構や土器溜り(土器集中)、平安時代や中世の井戸跡、奈良時代～中世と思われる畝状遺構や土坑が発見されました。平安時代の溝状遺構には多数の土器が捨てられていました。

2008 年度はこれまでの調査成果をまとめるために、出土品や図面、写真等の整理作業を行いました。出土品には弥生時代から近世の各時代の土器や石器、鉄製品などがあり、資料化するために実測図作成や写真撮影、土器の復元作業などを行いました。



▲Ⅷ-1区 2号墳(円墳)の周溝と近世の溝



▲Ⅷ-6区 近世溝の集中部分(近世)